

読書コーナー

ほどなく、お別れです

著者：長月 天音

大学生の清水美空は東京スカイツリーの近くにある葬儀場「坂東会館」でアルバイトをしています。その坂東会館には「訳あり」の葬儀ばかり担当する漆原という男性スタッフがいます。漆原は、亡くなった人と、遺族の思いを繋ごうと心を尽くす葬祭ディレクターでした。美空には亡くなった方の「気や声」が聞こえる特殊な能力があります。そんな美空と漆原は形だけの葬儀ではなく、死者にとっても遺族にとってもきちんと区切りとなる式をあげたいという思いで仕事をし、美空が成長する物語です。

そんな二人が働いている坂東会館には葬儀には病気で亡くなった方だけではなく、妊婦の不慮の事故、病気で長期療養中だった子



供、美空の大切な人など様々な事情での葬儀、そのほかにも美空の姉や漆原が葬儀屋で働くきっかけについてなどが書かれています。

私はこの話を読んで、「どんな人でも、生まれてきたからには、いつかは死んでいく。どれだけ医療が発達したとしても、人間には必ず終わりがある。残された人たちは死者を悼み、悲しみ、そして見送り、時に生について考える。」「死は特別なものではなく、自分の身近に必ず訪れるものだという。どんなにつなぎとめたくても、するりと指の間をすり抜けてしまう。」という文にすごく共感しました。

まだ親戚の葬儀に参加をしたことがない私ですが、曾祖母が亡くなった時を思い出しました。コロナ禍のためなかなか会うこともできず、葬儀も人数制限のため参列できず、複雑な感情を抱いたことを覚えています。6年経った今でも祖母の家に遊びに行けば「おかえり」と出迎えてくれるのではないかと思っている区切りがつかないのではなく、私たちの思いを出して生きて見守っていてくれるのかなどこの本を読んで思いました。

葬儀を経験してもしなくても共感することができ、そして前向きになるお話になっています。また、2月6日から実写映画も公開され、漫画も出版されていますので、ぜひご興味がある方は読んでみてはいかがでしょうか。

(文責：前原)

将軍の日 (中期5カ年経営計画作成セミナー)

『将軍の日』とは

戦国時代、将軍が戦場から離れた陣營で、戦局を見極め戦略・戦術を立てたように、経営者が日常業務から離れ電話も来客もない環境で、将来を見据え経営計画を作るセミナーです。社長を将軍にみたて、「将軍の日」と命名されました。

【受講料】

55,000円(税込)/名
2名様以降5,500円(税込)

お問い合わせ：めいわ税理士法人
027-361-5568 担当：森平



先行経営Tasseiを行いませんか！

先行経営 Tassei とはズバリ「経営者の指く目標を達成させること！」です。そして目標を達成させるためには「経営計画」が必要です。経営計画を立てても実現しないのは、計画とズレたことを把握したあとで行動が伴っていないから。計画とのズレを毎月見定め、修正行動に移す。この一番実践できない「修正行動」の部分を含め、実際に行っていくことが出来るのが「先行経営 Tassei」なのです。と同時に、経営者の意識や行動が明らかに変化します。

【料金】月額 55,000円(税込)から

編集後記

今年も年度末を迎えます。いろいろと動きが増える時期ですが、しかるべき手続きはお済みでしょうか。

めいわ新聞

MEIWA SHINBUN
令和8年3月号
第199号

高橋税経グループ

めいわ税理士法人 TEL:027-361-5568

群馬M&Aセンター TEL:027-364-8040

相模手續支援センター群馬 TEL:027-363-5959

〒370-0008 群馬県高崎市問屋町4-7-8 高橋税経ビル FAX:027-361-9591 URL:https://meiwa.tax Email:info@meiwa.tax

所長挨拶



早春の候、皆さまにはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

去る2月23日、天皇誕生日の日の朝、NHKテレビのBS4Kで、アドベンチャーサーー田中陽希氏が出演する「山岳古道 塩の道 日本海から太平洋へ420km」という番組が放映されました(1月2日放映分の再放送)。田中陽希氏は、2014年に日本百名山を南から北へ208日かけて徒歩とカヤックだけで人力踏破する「グレートトラバース 日本百名山ひと筆書き」を達成。

続いて翌2015年には221日かけて日本二百名山に選定されている残りの100座を北から南へ踏破。さらには2018年から3年かけて、すでに踏破した百名山・二百名山に加え、日本三百名山に選定されている全301座を一度に南から北へ踏破する「グレートトラバース3日本三百名山ひと筆書き」を達成した驚くべき記録を持ちます。

山歩きが好きな私は(ケタが違いすぎますが)、真っ黒に陽に焼けた顔と真っ白な前歯が印象的な坊主頭の田中陽希氏が、各地の山々を猛スピードで駆け登りまた駆け降りる様子を、毎回ほとんど憧憬にも近い思いで見えています。

今回の番組は「敵に塩を送る」の言葉どおり、かつて上杉謙信が敵將武田信玄に塩を送ったといわれるその通り道、古道「塩の道」を北から南へ辿るという企画です。戦国時代に謙信から命を受けたであろう越後の領民が、牛や馬の背に塩を乗せて通ったくらい道のだから、百

名山や三百名山のような急峻な山道はないだろうと高をくくって開始めたのですが、途中重い塩の運搬に堪えかねて死んでいった牛や馬を祀ったと言われるいくつかの馬頭観音が紹介されたりして、前途に一抹の不安を感じさせるスタートでした。

連日早朝に宿を出て夜遅く次の宿に到着するといったきつい日程でしたが、持ち前のスピードでぐんぐん距離を伸ばしてゆきます。

ところが伊那谷に入るあたりで古道が断絶、迂回ルートでいくつものピークを上り下りする1800メートル級の山の尾根を歩くことになり、まさに道なき道を進みます。この日の累積標高差は何と3千メートル。

そんな中、テレビカメラは脚時田中氏の前からの映像と背後からの映像を映し続けます。いつも田中氏の番組を見るたびに、誰がこんな急な山道を猛スピードで進む田中氏を撮影しているのだろうかと思いついていましたが、今回の番組ではその謎解きの場面もありました。

カメラを低い位置に持ったまま膝を田中氏の背中を追い続けるカメラマンが突然走り出したと思うと、猛スピードの田中氏を追い抜き、今度は後ろ歩きをしながら田中氏の前面からカメラを回します。そしてその彼らをまた別のカメラマンが追いかけてカメラに捉えます。

そんなアクロバットのような撮影を繰り返すカメラマンの中に、2024年に世界第2位の高峰であるK2西壁から滑落し今も行方不明となっている世界的な登山家、中島健郎氏と平田和也氏が含まれていることも明らかになりました。90分の番組でしたが、ずっしりと後に残る大見聞ごたえのある番組でした。

また春になって山の雪も溶けたり、私のペースで群馬の美しい山に登ってみたいと思っています。(照には十分気を付けながら)

朝晩の寒気も緩み季節の花も咲き始め春の訪れを感じる今日この頃ですが、皆さまにはご自愛の上、毎日をお元気に過ごされますよう心からお祈り申し上げます。

Contents

- P1 所長挨拶・目次
- P2 税務トピックス

- P3 職場の教養
- P4 読書感想文・将軍の日・編集後記

めいわ税理士法人 ～税務TOPICS～

【2026年度税制改正大綱】
主な改正内容をチェック

2025年12月に公表された「令和8年度(2026年度)税制改正大綱」では、インボイス制度の定着に向けた事務負担への配慮や激変緩和を目的として、消費税に関する経過措置が見直されました。
今回は、特に小規模事業者に関連の深い「2割特例」の延長・見直しと、免税事業者等からの仕入れに係る「仕入税額控除」のルール変更について紹介します。

「3割特例」の新設

インボイス制度導入時に設けられた「2割特例」は、2026年9月末までの課税期間をもって終了しますが、小規模な個人事業者を対象とした経過措置として、売上税額の3割を納付税額とする「3割特例」が新設されます。(2027年と2028年の2年間に限り適用可)
この特例は、免税事業者がインボイス発行事業者となった場合などの一定の個人事業者が対象であり、法人は適用対象外となる点に注意が必要です。



仕入税額控除の経過措置延長と控除率の見直し



現行制度では、インボイス未登録の免税事業者等から課税仕入れを行った場合でも、仕入税額相当額の80%を控除できる経過措置が設けられていますが、控除可能割合を段階的に引き下げたうえで、最終的な適用期限が2031年9月30日まで延長されることとなりました。
具体的な控除可能割合については、2026年10月からは70%、2028年10月からは50%、2030年10月からは30%へと引き下げられます。
なお、一の免税事業者等からの課税仕入れの合計額が年間1億円(現行:10億円)を超える場合、その超える部分の課税仕入れには、本制度を適用できない点にも注意が必要です。

今回の改正は、インボイス制度の影響を受ける小規模事業者への配慮を継続しつつ、制度の適正な運用を目指す内容となっています。
特に3割特例の対象となる個人事業者は、制度の適用期限や将来的な簡易課税への移行タイミングを再確認しておきましょう。

朝礼にて ～職場の教養～

毎日の朝礼で、一般社団法人倫理研究所の「職場の教養」を輪読し、感想を述べています。その感想で、良かったものを紹介致します。

1/16(金) 玄関のゴミ袋

Tさんは夫婦で家事を分担しており、「ゴミ出し」はTさんの役割でした。
回収日になると妻から「お願いね」と声がかかり、ゴミ出しから戻ると「ありがとう」と感謝される、そんな日々が続いていました。
ところが、ある時から様子が変わります。回収日には、無言で玄関にゴミ袋が置かれるだけになりました。労いの言葉もなく、ただそこにある袋を淡々と処理するだけになったのです。
〈私が捨てるのが当たり前みたいじゃないか〉とゴミ袋を出すたびに、〈一言くらいあってもいいのに〉という不満がTさんの心の奥で膨らんでいきます。

そんなある日、ふと自分の日常を振り返ったとき、妻がしてくれる洗濯や食事の準備を、どれほど「当たり前前」と思っていたかということにTさんは気づきました。
〈言わなくても分かるだろう〉と感謝を怠っていたのは自分だったのです。
その気づきが心のわだかまりをほぐし、Tさんは以後、妻に「今日もありがとう」と感謝や労いの言葉をかけるようになったのです。



今日の心がけ 心の動きを表現しましょう

今日の職場の教養を読んで、身につまされる思いでした。
私の家庭でも妻は家の事を全てやってくれています。
それに対して感謝の気持ちは常に持ちながらも言葉に出して言ったことは数えるほどしかないと思います。私が仕事に打ち込めるのも家庭環境を妻が守っているからこそだと、改めて思い返しました。どんな事でも相手に対して感謝の気持ちを言葉で送ることで、相手との信頼関係の醸成にもつながると思います。
これからも常に相手の事を考えながら行動を共にしていきたいと思いました。そして感謝の気持ちを必ず言葉にして伝えていきたいです。

(文責:半田)

